

歯と口の健康を 維持する素晴らしさ



岡崎歯科医師会
会長 織田 盛久 氏

教育随想

現在、我が国は人類史上類を見ない少子高齢化という社会現象に直面し、労働力不足の問題はますます深刻さを増し、社会保障制度の存続も危ぶまれる状況にあります。

国は健康寿命の延伸こそがこの難局を乗り越えるカギになるのだと考え、様々な施策を打ち出しています。そして、そのカギを握るのがまさに「歯と口の健康」であり、私たち歯科医療が果たすべき役割は非常に大きいものだと考えています。

歯と口の健康を維持することは、糖尿病などの生活習慣病の重症化予防に繋がり、更には脳や心臓の血管疾患、認知症、肺炎といった全身疾患の予防にも効果を発揮します。また最近注目される「オーラルフレイル」つまり口の機能低下は、全身のフレイル（身体の虚弱）へとつながる

ため、これを防ぐことが元気で長く働ける高齢者の増加へも寄与します。

高齢者が健康に働ける社会は、まさに労働力不足の解消に向けて大きな助けとなります。そして医療費や介護費の適正化により、社会保障制度の安定と持続可能性を支える土台にもなるでしょう。こうした循環こそが、豊かな日本の未来を築く力になると思います。

そして、この歯と口の健康は一朝一夕に成し得るものではなく、幼少期からの継続的な健康管理の積み重ねがあつて初めて築かれます。だからこそ、私たち歯科医療関係者は、幼少期からの口腔ケアと健康教育の推進に力を尽くします。歯と口の健康を守り続けることは健康寿命の延伸に繋がり、そして究極は、介護不



(おだ もりひさ)



令和8年9月1日

9月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岡崎歯科医師会
会長 織田 盛久 氏
- この人に聞く…………… 2
防災ファーストペンギン☆おかざき所属
防災士 荒木 歩 氏
- 羅 針 盤…………… 2
生徒指導指導員 山本 公三
- ふれあい…………… 3
福岡小学校
教諭 杉本 智恵
- 特 集…………… 4
1300年受け継がれた音 和楽器
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
滝山寺での土鈴販売(平成2年)
- この本を…………… 8



大切な人と、 安心して過ごせるように

防災ファーストペンギン☆おかざき所属

防災士 荒木 歩 氏

任意の小規模避難所の設置に向けた取組や防災啓発活動など、子供と女性の視点で防災活動を行う「防災ファーストペンギン☆おかざき」。防災士や保育士など多様な資格をもつ人が集まり、様々な視点から防災の大切さを伝えている。その中心として活動する荒木氏に、話を伺った。

—団体結成に至るまでのいきさつを教えてください—

二〇一六年に熊本地震が起きました。その時、私は第三子の育児休暇中でした。ニュースでは、熊本県在住の母親たちの声を取り上げられていました。それを聞きながら、「私ももしものとき、完全ミルクで育てている第三子や上の子たちを、守りき

れるのだろうか」と強い不安を感じました。そのことをきっかけに、私にできることを探し始めました。自分の子供と防災展示を見に行ったり、家庭でできる備えを試したりしました。女性防災リーダー養成講座も受講し、災害時の避難所運営には、子供や女性の視点が十分に取入れられていないことに気付きました。そこで、講座の仲間と共に、子供や女性の視点を取り入れた防災啓発を行うおうと団体を結成しました。

—活動の中で、どんな気付きや価値を得ましたか—

子供たちが自分の命を自分で守れるようになるために、私は子供と一緒に学ぶことを大切にしています。活動を続ける中で、子供には、大人が見落としがちなことに気付く、独自の視点があることを知りました。例えば、避難所宿泊体験でマンホールトイレを設営したときのことです。使用した子供たちから、「いつものトイレより穴が深くて怖い」「幕で覆われているから、夜はいつもより真っ暗。落ちそうで不安」という声がありました。これが、「マンホールトイレにはライトが必要」という大人の気付きにつながりました。子供ならではの視点を生かすことで、安心して過ごせる避難所の実現に近づけることができた実感しました。



氏名 あらい あゆみ
生年月日 昭和五十四年
十二月十三日
住所 岡崎市西大友町

また、被災地の方々との交流から多くの学びがあります。私たちが何でもやってしまうのではなく、炊き出しや掃除と一緒に行うことで、被災者の方が自ら動き出し、活気を取り戻していく姿が見られました。支援の在り方を見つめ直すとともに、被災者の心に寄り添う支援が大切であることを改めて感じました。

—今後の展望を教えてください—

岡崎市内に小規模避難所を増やすため、できることから一歩ずつ取り組んでいきます。小規模避難所とは、託児所や寺院などの身近な場所を、災害時でも安心して過ごせる場所にすることです。災害時、子供や女性、妊産婦が安心して過ごせる場所は、まだ足りていません。だからこそ、子供がのびのび遊び、赤ちゃんが泣いても母親たちが気兼ねなく過ごせる場所をつくりたいと思っています。

イベントや防災訓練では、楽しく体験できるブースを出展しています。そこでは、出会った方々との交流から得た気付きや学びを、更に多くの人に届けていきたいと考えています。誰もが大切な人と安心して明日を迎えられるような環境づくりに向け、今後も前向きに取り組んでいきます。



発達支持的生徒指導を 基盤とした授業づくり

生徒指導指導員 山本 公三

発達支持的生徒指導とは、子供の自発的・主体的な成長の過程を支える指導の在り方であり、全ての子供を対象に、あらゆる教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものである。とりわけ、生徒指導の実践上の視点である「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を意識した、学習指導と生徒指導の一体化が重要となる。

例えば、体育科の跳び箱の授業で、六段の開脚跳びに挑戦するAさんに対し、B教諭は「前回よりも手を遠くにつけるようになったね。何度も挑戦していることが素晴らしいよ」と声をかけた。結果だけではなく、成長の過程や挑戦を続ける姿勢を認められたことで、Aさんは意欲を高め、再び挑戦することができた。こ



思いを声に

福岡小学校

教諭 杉本 智恵

四月。私はほし組（校内教育支援センター）の担当として新年度を迎えた。四月早々、六年生のAさんが、ほし組から飛び出した。新たに担任となった私とどのように関わればいいのか、不安を抱いたのだろう。

「今日はどこで何をして過ごしたいかな。」

Aさんは私がつないだ手を振りほどこうと、体をねじる。そんなAさんに、あなたを必ず受け止めるという思いを伝えたいと思った。

「どんなAさんでもAさん。いいところのAさんだけを見ていたいと思わない。だって困っているからほし組に来ようと思ったのでしょう。今だって何か困っているのでしょう。」
徐々に柔らかな表情になったAさんに私は続けた。

「大丈夫。あなたのこと、絶対に嫌

いにならないから。」

私の腕に寄りかかるAさんに、さらに言葉を重ねた。

「困っているときは、困っている、助けてほしいときは、助けてほしいって言ってもいいよ。」

「そんなこと、絶対言えない。」

「そうだね。でも、私はあなたの力になるって決めたから。少しずついい。一緒に考えていこう。」

安心して自分の思いを声にできるようになってほしい。その願いを胸に、私はAさんに寄り添い続けた。

私との関係に少し慣れてきたのか、ある朝、Aさんから声をかけられた。

「ねえ、一緒に来て。」

「いいよ。来てって言ってくれてうれしいな。行こっか。」

Aさんが在籍している教室が近くにつれ、つないだ手に力が入る。足取りも重くなる。

「一緒にいるから、大丈夫。」

Aさんが一歩教室に足を踏み入れた。周りを見渡し、足早に教室を後にした。先に戻り、困った顔でほし組の席に座るAさんに「入れたね」と声を掛けると、肩の力がすっと抜けたように見えた。自分を表現できる居場所をつくりたいという私の願いが、Aさんに届き始めているのかもしれないと感じた。

五月。

「私、体育フェスティバルは出るっ

て決めたから。」

「そうか。すごいね。組体操で困っていることは何かある。」

「去年、一人技まではやったからできる。でも二人技はちよっと。」

「そうか、じゃあ、逆立ちの練習してみようか。」

マットをほし組に敷いて何度も練習をがんばった。本番もやりきった。挑戦することを自分で選び、行動できたことに大きな成長を感じた。

六月。五時間目の体育を終えたAさんに「じゃあ、また明日ね」と声を掛けた。

「先生、明日も絶対に学校に来てよ。」

「先生もAさんに会いたい。明日、待っているね。」

積み重ねてきた関わりが実を結び、Aさんが自然に気持ちを表出できるようになった瞬間であった。



うした関わりが子供の自己存在感を高めるとともに、安全かつ安心して学びに向かい、失敗を恐れず挑戦できる学習環境づくりにつながった。

また、音楽科の授業においてC教諭は、自分に合った目標や、目標を達成するためのこだわりポイントを考える場を設けた。歌うことに自信がもてないDさんは、チームの友達にも相談をしながら、「歌い出しをぴったり合わせる」という目標と、「隣の友達と息を吸うタイミングを合わせる」という自分のこだわりポイントを定めた。Dさんは目標を意識して歌い切り、級友とハイタッチを交わして喜びを共有した。ここでは、自己決定の場が保障され、共感的な人間関係の育成も図られていた。

発達支持的生徒指導を基盤とした授業の実現のためには、「できたかどうか」だけではなく、その過程にある努力や成長を丁寧に見取り、価値づけることが大切である。また、子供同士の関わりを意図的に生み出すような仕掛けも重要となる。さらに、教師の温かな関わりは、子供のよさや可能性を引き出し、自信をもって学び続ける姿を支えるものとなる。

子供が安心して挑戦し、認められ、仲間と共に成長を実感できる授業づくりこそが、学習指導と生徒指導の一体化を実現する実践に他ならない。

1300年受け継がれた音



和楽器

▲雅楽部の演奏の様子(矢作北小)

古来より、日本人の暮らしや祭り、芸能とともに育まれてきた「和楽器」。その音色は、私たちの心の奥深くに静かに響き、懐かしさや安らぎを与える。そして時には凛とした高揚感をもたらす。

飛鳥から平安時代にかけて、大陸から伝来した音楽や舞は、日本古来の国風歌舞（くにふう）にぶりのうたまい」と融合し、やがて雅楽へと発展した。こうして、日本独自の美意識に支えられた和楽器文化が形成された。

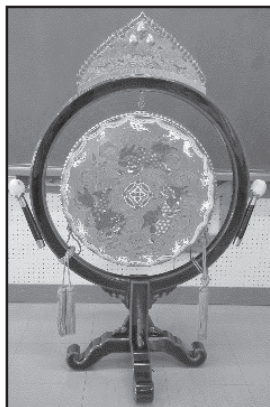
その後、江戸時代にかけて、尺八・三味線・箏といった和楽器は大きく発展した。尺八は僧たちの修行によつて広まり、三味線は女性たちの芸能の中で親しまれ、箏は八橋（やっばし）検校（けんぎょう）（箏の名手・作曲家）の活躍により広く普及した。こうして和楽器は人々の生活に深く根付き、身近な存在となつていった。

しかし、明治以降の西洋化の広がりにより、音楽教育の中にも西洋音楽が取り入れられるようになった。その結果、人々の関心は次第に西洋音楽へと移り、和楽器は日常から遠のいていく存在となつていった。

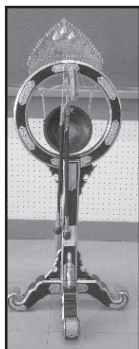
現在、和楽器のもつ価値が改めて見直されている。繊細で奥行きのある音色や、日本特有の精神性を次世代へ継承するための取組が進められており、文化庁による学校巡回公演もその一つである。岡崎市でも、地域で活動する雅楽団体が小学校の雅楽部を三十年以上継続して指導している。学校教育の中でも和楽器に親しむ授業が実践され、次世代に伝統文化の継承が図られている。

和楽器の響きに耳を傾けると、我々は、日本古来の美意識に触れることができる。

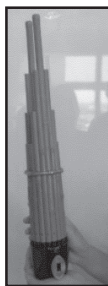
雅 楽 で 使 わ れ る 楽 器



▲楽太鼓(がくだいこ)



▲鉦鼓(しょうこ)



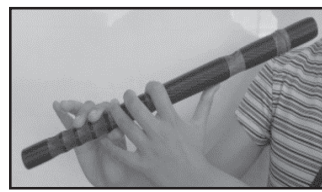
▲笙(しょう)



▲羯鼓(かっこ)



▲箏篋(ひちりき)



▲竜笛(りゅうてき)

地域から学ぶ



▲演奏する楽人会のみなさん



▲楽人会の方による楽器の指導

【矢作北小学区で雅楽演奏の活動に取り組む「長瀬楽人会」】

活動は江戸時代に端を発し、170年以上も続いている。矢作北小学校で雅楽部が発足した平成2年から30年以上、指導に携わっており、各楽器に分かれての指導や合奏指導など、子供たちの活動の大きな支えとなっている。

家元から学ぶ

【小唄の小六派 三代目家元 小六悦朗氏
副家元 小六房奈氏】

小唄小六派 三代目家元 小六悦朗氏と副家元 小六房奈氏を講師として迎え、三味線を使った伝統音楽の授業を行った。撥ばちを使った演奏ではなく、爪で弾く手法を教わった。



▲家元から三味線の指導を受ける生徒(翔南中)

【三味線講習を受けた生徒の声】

ばちばちで弾かない三味線も雰囲気があって楽しかったです。僕の好きな音に巡り合えました。今では、自分で歌舞伎などを見るようになりました。(翔南中)

学校巡回公演



▲琴を体験する児童(美合小)



▲演奏を聞く児童(愛宕小)

【文化庁による学校巡回公演】

すべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としている。

今年度の学校巡回公演では、事前にワークショップを行い、子供たちに実演指導を行った。公演時には、6年生の児童と一緒に「さくらさくら」を演奏した。



▲三味線を体験する児童(美合小)



▲尺八を体験する児童(美合小)

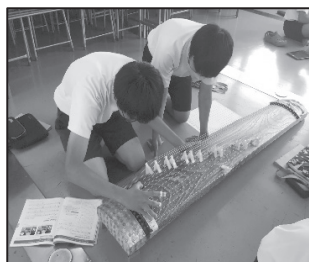
【学校巡回公演を体験した児童の声】

・最初に尺八をふいたときには、音が全然出ませんでした。担当の方がコツを教えてください、きれいな音が出たときは、とてもうれしかったです。(美合小)
・能管や鼓による演奏が、能や狂言の迫力を引き立てていると感じました。とてもかっこよかったです。(愛宕小)

授業で触れる

【教員による和楽器の体験活動】

現職研修委員会音楽部が保管する和楽器を借用し、本物に触れる体験の場をもっている。



▲箏の体験をする生徒(矢作中)



▲箏の体験をする児童(竜美丘小)



▲箏の体験をする児童(生平小)

【箏を体験した児童の声】

・箏の音の美しさに感動しました。もっと上手に弾きたいと思いました。(竜美丘小)
・五の弦の音がいちばん気に入りました。柱の位置でなんにも音が違うということに驚きました。(生平小)

2位 岡崎 I 倉橋 伶奈

小野田圭村

沼沢溜那



相談窓口	電話番号	相談受付日時	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	
あいちこころのサポート相談(SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0564-83-9743	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	

令和 8 年度全国学力・学習状況調査における岡崎市立小中学校児童生徒の結果(暫定版)について

1 調査分析概要(全国の平均正答率との比較)

(1) 全体の様子

小学校においては、算数は「よくできている」、国語は「できている」状況にあります。「知識・技能」に関する問題については、算数が「よくできている」、国語は「努力を要する」状況にあり、「思考・判断・表現」に関する問題については、算数は「よくできている」、国語は「できている」状況にあります。

中学校においては、英語が「たいへんよくできている」、国語・数学は「できている」状況にあります。「知識・技能」に関する問題については、国語・英語が「よくできている」、数学は「できている」状況にあり、「思考・判断・表現」に関する問題については、英語が「よくできている」、国語・数学が「できている」状況にあります。

※中学校英語は、公開問題の結果から分析しています。英語「話すこと」調査に関する結果は、9月以降に提供されるため、それを受けて改めて分析・公表します。

(2) 小中学校別各教科に関する問題の様子

《小学校 6 年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	できている ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることがたいへんよくできている。 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができている。 ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができている。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力が弱い。
算数	よくできている ・立方体の体積の計算による求め方について理解する力がたいへん優れている。 ・日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述することがたいへんよくできている。 ・示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述することがたいへんよくできている。 ・二次元の表から、条件に合う数を読み取る力が弱い。
学習状況	・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童は、そうでない児童に比べて正答率が高い。 ・「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか」において、時間が少ないほど正答率が高くなる傾向にある。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に「当てはまる」と回答した児童は、「当てはまらない」と回答した児童に比べて正答率が高い。 ・「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答した児童は、「できていない」と回答した児童に比べ、正答率が高い傾向にある。
生活状況	・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。 ・「人が困っている時は進んで助けている」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。 ・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に「よくある」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っている。 ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っている。

《中学校 3 年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	できている ・単語の類別について理解する力がたいへん優れている。 ・文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことがよくできている。 ・語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える力がやや弱い。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力がやや弱い。
数学	できている ・反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対する y の値を求めることがたいへんよくできている。 ・起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることがたいへんよくできている。 ・四角形において、2直線が平行になるための条件を理解する力がやや弱い。 ・筋道を立てて考え、証明する力が弱い。
英語	たいへんよくできている ・社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることがたいへんよくできている。 ・日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を読み取ることがたいへんよくできている。 ・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能がたいへん優れている。 ・日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く力がやや弱い。 ※「話すこと」調査に関する分析結果は、9月以降に公表する。
学習状況	・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答している生徒の正答率が高い傾向にある。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。
生活状況	・「学級で人と違う意見を言っても否定されなと思いますか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。 ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく下回り、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒の割合についても全国平均を下回っている。

2 岡崎市の基本的な考え方

すべての子供の学びを保障し、主体的・対話的な学びを通して、それぞれが深い学びを実現することを目指します。そのために、子供の学びの個性化、教師の指導の個別化を、さらに積極的に推進します。

3 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

- (1) 国語、算数・数学、英語における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握します。
- (2) (1)の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事等が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。
- (3) 各学校で行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むように指示します。
- (4) 教育委員会と学校は、家庭や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていきます。

4 留意点

- (1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものです。
- (2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部分です。
- (3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努めます。
- (4) 家庭では、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲をもって取り組める励ましや環境づくりをお願いします。

滝山寺での土鈴販売 (平成2年)

写真提供：常磐中学校

この写真は、滝山寺で行われる鬼祭りの際に、生徒制作の土鈴を販売している様子である。長年続くこの販売活動を、地域の方々も楽しみにされている。常磐中の土鈴作りは昭和四十九年まで遡る。おかざきっ子展の作品として生徒が作った土鈴を、鬼祭りの際に販売することになった。以後、生徒会に引き継がれ、全校生徒による土鈴作り、販売活動が続けられている。収益の一部は、児童養護施設米山寮に寄付されている。子供たちの学びは教室の中だけで完結するものではない。地域との関わりの中で多様な人々と触れ合い、自らの存在意義や社会とのつながりを実感していく。



特定の子供への支援にとどまらず、全ての子供の努力や挑戦の過程を認め、自発的・主体的な成長を支えることが発達支持的生徒指導の基盤であり、学校全体で取り組む必要がある。夏休み明けの新学期。教師として、一人一人のよさや可能性を丁寧に見取り、安心して挑戦し続けられる環境づくりに努めていきたい。

邦楽の歴史を遡ると、雅楽に辿りつく。雅楽は千三百年以上にわたって受け継がれ、世界最古のオーケストラとも呼ばれている。雅楽には指揮者がいない。演奏者は互いの音を聴き、肌で気配を感じながら、あうんの呼吸で演奏を合わせる。私たち教員も互いを信頼し、心を合わせて教育を作り上げる集団でありたい。

ど ホ

長 月

ツ



▲敬老会（岩津中）

つながりを大切にする荒木氏。今日を明日につなげる、命をつなげる、仲間をつなげる。「私たちの体験から、防災への取組が一步動く」と、温かい笑顔を浮かべながら語った。災害は、いつ起こるかわからない。だからこそ、子供たちが防災を自分事として考えられるような防災教育を目指し続けたい。



*法則 マクロに発想する 船井 幸雄
サンマーク出版 ￥1,600

心に残った一文

幸運と不運を分ける分水嶺のポイントに言葉がある。

職員室で子供の話題が出るとき、呼び方を「〇〇さん」にするだけで、その子は大切な一人として扱われる。使う言葉一つで、人の見方や接し方が変わる。そして、学校の雰囲気まで変わっていく。「ありがとう」は美しく優れた日本語で、運とツキを招く幸せの言葉だと著者は言う。感謝の言葉には相手との関係を温かくし、気持ちを前向きにする力がある。

本書を読んで、日々使っている言葉こそが、人間関係や学校の雰囲気をつくる土台なのだと感じた。幸せの言葉があふれる学校にしていきたいと思う。

*100年学習時代 本間 正人
BOW&PARTNERS ￥2,300
*頭のいい人が話す前に考えていること 安達 裕哉
ダイヤモンド社 ￥1,600
*スマホ育児が子どもを壊す 石井 光太
新潮社 ￥1,700
羽根小学校 永井 利昌